

特定非営利法人日本スポーツ栄養学会 第11回大会報告

熊原 秀晃（中村学園大学 栄養科学部栄養科学科）

2025年8月30日（土）・31日（日）に中村学園大学（福岡市）にて日本スポーツ栄養学会第11回大会が開催されました。本学会の大会は、過去10大会と前身の日本スポーツ栄養研究会で行われた7大会ともに本州ならびに四国で開催されてきており、九州初開催の大会となりました。また、第6回大会以来の現地のみの開催となりました。このような開催地までの距離、オンデマンド配信のメリットがない大会に、果たしてどれだけの方にご参加いただけるか等々・・・の不安は杞憂となり、当日は900名を超える方のご参加と近年で最も多い133の一般演題（口演84、ポスター49）の発表のある活気あふれる大会となりました。会場のあちらこちらで再会に喜ぶ笑顔も溢れた開会となりました。

大会テーマ「千思万考 スポーツ栄養の科学：活動と成長のエネルギー」にもとづくプログラムは、5つの口演会場（＋サテライト2会場）と1つのポスター発表会場で進行了。合計21の指定演題セッション（特別講演1つ、教育講演3つ、シンポジウム8つ、共催教育講演1つ、スポンサードシンポジウム1つ、ランチョンセミナー1つ、学会企画3つ、競技を知る、学会奨励賞受賞者講演、市民公開講座）は、いずれの会場も満員盛況でした。一方、開催者としては、会場が手狭で大混雑したり、見積り甘さにより初日朝の参加受付で大行列をつくってしまうなど、参加者の皆様にはご不便とご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。そのような状況でも事故なく大会を終えることができたのは、皆様のご配慮とご協力のおかげでございます。お礼申し上げます。

特別講演には、1日のエネルギー消費量測定法のゴールドスタンダードであるメタボリックチャンバー法と二重標識水法を日本に導入される契機をつくれ、その歴史を熟知されている吉武裕先生（名城大学）にご登壇いただき、ヒューマンカロリーメーターを中心にヒトのエネルギー代謝測定法の国内外の歴史とそれを活用したスポーツ栄養学研究への期待をご講演いただきました。その直後に行われたシンポジウムでは、その導入された2つの測定法を運用してきた研究者から最新の知見をご紹介いただきエネルギー消費を測る意義を改めて考える機会となりました。

また、福岡県は国内初でスタートしたスポーツタレント発掘・育成事業が実施されており、日本を代表するアスリートが多く輩出されています。このような背景から、日本スポーツ振興センター・ハイパフォーマンススポーツセンター長の久木留毅先生をお招きし、福岡県タレント発掘実行委員会事務局（福岡県スポーツ振興センター）および食育プログラムワーキンググループ講師と修了生2名（元7人制女子ラグビー日本代表の藪内あゆみ選手は現地登壇、パリ五輪自転車競技日本代表の池田瑞紀選手は当日レースのためビデオ登壇）によるタレント発掘・育成事業における食育プログラムの取組と地域間連携に関するシンポジウムが行われました。さらに、ジュニア期の運動と栄養の諸課題に関して、新体操競技や小児科ジュニアアスリート外来に関するセッションも行われ、ヒトの成長とエネルギー（摂取・消費）、栄養サポートの可能性を改めて考える機会となったと思います。

そのほかにも、脂質・糖質・たんぱく質の各々に特化した3つのエネルギー産生栄養素セッション、それらエネルギーの摂取を最適化するにあたる促進要因や阻害要因を探究する消化吸収および食欲制御に関するセッションなど国際的にインパクトある研究成果を発表されている研究者による基礎的な研究内容から、ジュニアアスリート支援や2024パリ五輪大会での栄養士の活動、サプリメントの考え方を再考する話題、そして公認スポーツ栄養士のスキルの1つであるスポーツ栄養マネジメントに関する話題などスポーツ栄養現場の最前線で活躍されている先生方による実践的な内容に至るまで、充実したセッションを企画いただきました。



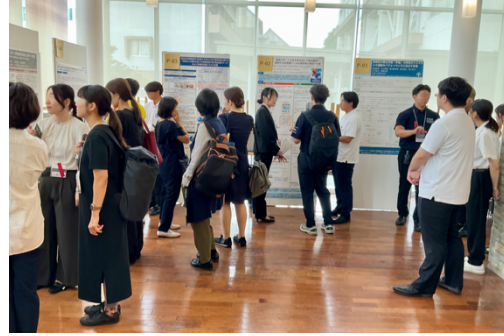
大会と市民公開講座の立看板



口演会場の様子（第5会場）



ポスター会場



学部生等発表の様子

本大会の一般発表においては、実践活動報告などの事例報告部門も研究・調査発表部門と同じ発表時間・質疑応答時間で行われました。実験的研究から実践活動まで多岐に亘る内容が発表され、質疑応答も活発に行われ、発表者と聴講者お互いの知識や経験を共有する絶好の学術交流の場となったようでした。スポーツ栄養を科学する基盤構築にかかせないのは、学会員一人一人からの知見の発信です。実践活動に関してもまずは大会での発表、次にはそれを論文化することで（ぜひ本学会研究誌へご投稿ください）、根拠をもって活用できる後世にも伝わる情報となります。本学会がスポーツ栄養「学」を推進する学術団体として成熟していくためにもそのような学術的情報としての蓄積が必要と思います。本大会の一般発表では13演題がマッチング希望演題として発表されました。実際に過去のマッチング企画を通じて論文公表まで至った経験者が登壇した学会企画セッションでもお示しいただきましたが、学会発表や論文執筆の経験がない方でもその気になれば論文化できる可能性は高いです。日本スポーツ栄養学会では、会員が現場で得た測定値や経験を学術的情報として公表することを支援する仕組みを設けています。ぜひご活用いただき、まずは大会での発表から挑戦することを検討されてみてはいかがでしょうか。

学会大会では、優秀演題賞を表彰しています。第11回大会では、研究・調査発表部門から2演題、事例報告部門から2演題に授与されました。1人の演者の先生は、前回までの大会参加で刺激を受け、いつか自分が発表者となろうとご努力されてきたとのこと、本大会のご発表で見事に受賞されました。

また、本大会では「学部生等発表」を新たに設け、登録いただいた4演題を2日目のポスターセッションにて連番で並べ発表いただきました。いずれの発表者も堂々かつ真摯に質疑応答を行われており、発表者と指導教員による十分なご準備があったことが伝わってきました。発表者が楽しそうに充実した表情でいらっしやったことが印象的でした。学術的に情報発信する術を早期に経験されただけでなく、同じ領域に関心を持つ他大学の同世代との横の繋がりができたのであれば幸いです。近い将来、スポーツ栄養領域の研究者あるいは実践現場からの発信者として本学会でご活躍いただけることを楽しみにしております。



第11回大会優秀演題賞受賞者とプレゼンターのみなさま

第9回大会から恒例となっている企業展示を回るスタンプラリー企画も実施しました。多くの参加者がブースに訪問されることが出展企業様から好評となっています。本大会では29社による企業展示ブースが並び、相変わらずの賑わいでした。本大会で初めてご出展いただいた企業様は、参加者とのコミュニケーションの機会の多さと熱量に驚かれていました。その他、本大会では優秀演題賞や広告、寄付、ランチョンセミナーを含む共催セミナー、商品協賛といった様々な形で、計54社の企業・団体様より協賛を賜りました。心より感謝申し上げます。今後とも日本スポーツ栄養学会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

懇親会は、学生食堂「食育館」にて開催し、本学の久保千春学長の乾杯挨拶で開会しました。学内実行委員の先生方の企画により、中村学園事業部に全面協力いただき緒方義輝総料理長の監修による九州各地のお料理や、豚骨ラーメンやローストビーフのカッティングといったライブ感を出した演出も企画しました。糸島市の白糸酒造のお酒など福岡県のものも準備いたしました。また、本学卒業生で現在、熊本阿蘇で杜氏をされている山村酒造合名会社の山村純平様にも試飲コーナーをご出展いただきました。福岡・九州の味を楽しんでいただきつつ、新たな出会いや懇親を深める時間となったのであれば大変嬉しく存じます。



展示会場



懇親会も沢山の方にご参加いただきました

本大会が、参加者の皆様それぞれの立場において、スポーツ栄養を科学することを改めて千思万考する機会となったのであれば幸いです。来年の第12回大会（大会長：虎石真弥先生）は、「自分流で拓くスポーツ栄養の未来」をテーマに帝京大学八王子キャンパスにて現地開催で計画されています。会員各々が研究や実践活動のアクティビティを高め、来年の大会でも知見や疑問を持ち寄りましょう。第12回大会が、そうした多くの参加者が集まるエネルギッシュな学術的交流の場となることを心よりお祈りしております。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり多大なるご支援・ご協力を賜りました企業・団体様、ご登壇やセッション企画にご協力をいただいた先生方、座長や審査を快くお引き受けくださった先生方、そして参加者の皆様に深謝申し上げます。また、不慣れな大会長を暖かくご支援くださいました4名の学内の先生と9名の福岡県内・大分・長崎・宮崎・鹿児島・山口のほぼ九州体制で構成した実行委員の先生方、大会当日に運営支援をいただいた学生スタッフの皆様にお礼申し上げます。そして、運営事務局として安心のバックアップをいただいた(有)ヤマダプランニングの皆様、ならびに様々なご配慮をいただいた中村学園大学・中村学園大学短期大学部の関係部署の皆様にお礼申し上げます。



第11回大会実行委員会



大会長公認・大会非公式キャラクター（卒業生作）もSNSで活躍してくれました。運営してくださった方々にもお礼申し上げます。